

V 教育課題

第11分科会 社会形成能力

○ 研究課題 ○

社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方

■ 分科会の趣旨 ■

今日、社会では、少子高齢化や核家族化の進行とともに、絶え間ない技術革新の中で、人間関係の希薄化の傾向が一層強まっている。また、周囲の人々との交流に消極的な家庭が増え、住民による地域活動が低迷したり、家庭の価値観の多様化や地域コミュニティの変化に伴い、子どもたちの人間関係を育み広げる機会が減少し、地域の中で社会性を高めたりすることが難しくなっている。

このような情勢の中で、学校においては、これからの社会を生きる子どもたちに、しなやかな知性と創造性、豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、社会形成能力の基礎を身に付けられるようにしなければならない。

さらには、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、社会とどう関わり、どのように貢献していけるかを考えた学校づくりを進めていく必要がある。

そのためには、子どもたちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした豊かな体験活動を積極的に取り入れていくことが大切である。また、全教育活動をキャリア教育の視点から捉え、幅広い学力、コミュニケーション能力や規範意識等、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を高めていく教育課程を編成し、働く意義や目的を探究して、自分なりの勤労観・職業観を形成していく指導をすることも重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題を解決する力や態度を養うための具体的方策と成果を明らかにする。

■ 研究の視点 ■

(1) 社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進

学校は、子どもたちに社会の仕組みを理解できるようにし、自立した社会人として生きていくために必要な知識や能力を育むとともに、社会に貢献しようとする態度の育成を目指さなければならない。

そのために、授業では、課題解決を図る学習過程において、地域の特色を生かした体験的な教育活動を積極的に取り入れて、夢に向かって努力してきた人々や、伝統や文化を大切にし、高い志をもった人たちとの出会いの場をつくる必要がある。

校長は、このような認識の下に、子どもたちが将来への夢や目標を確立し、希望をもって社会の一員として歩き始めることができるよう教育活動を推進していくことが求められている。

このような視点に立ち、他者と協働して主体的に社会に参画し、貢献しようとする意欲や態度を身に付けることができる教育活動を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育の推進

小学校におけるキャリア教育は、子どもたち一人一人の将来における社会的・職業的自立に向けて必要となる能力・態度を養うことを目的としており、全教育活動を通して6年間、組織的かつ計画的に推進していくものである。

そのため、学校において、体験的な学習活動を充実できるようにするとともに、家庭・地域社会との連携を図りながら、子どもたちに様々な人々や社会との関わりをもてるようにする。そのような活動を通して、社会生活の基本的ルールを身に付け、社会の中での自己の役割を認識し、働くことの意義や夢をもつことの大切さを理解できるようにすることが求められている。

このような視点に立ち、教育活動全体を通じて、豊かな未来社会の実現に貢献する力を育むキャリア教育を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

研究
発表

ふるさとを愛し、志を持って、新しい社会を切り拓く力を育むキャリア教育の推進
～地域社会に貢献しようとする意欲や態度を育てる教育活動の推進と校長の在り方～

宗谷地区 幌延町立幌延小学校 吉崎 健一

I 趣 旨

1 キャリア教育推進が求められる背景

少子高齢化や核家族化の進行、技術革新などの急激な社会変化により、地域の中で人間関係を育み、社会性を高めることが困難な時代になっている。

宗谷においても、少子高齢化に伴い、過疎化が進み、子どもたちが将来の夢や希望を持ちにくい現状がある。このような情勢の中、ふるさとを愛し、可能性に挑戦する力を育てる体験活動の充実と地域の課題を捉え、将来のふるさとづくりに貢献しようとする態度を育てる教育活動の推進を意識した学校づくりが求められている。

2 直近の大会の課題から

宗谷校長会は、昨年開催された第61回北海道小学校長会教育研究函館大会において、「子どもたちの夢や希望を育むキャリア教育の推進」をテーマに提言発表を行った。キャリア教育推進を担う市町村校長会の取組、教職員の意識改革を図る校長のリーダーシップ、地域の教育力を生かしつなげる校長の役割を明らかにする実践を報告した。

大会の研究協議で明らかになった諸課題のうち、

- (1) 将来の生活や社会と関連付けながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- (2) キャリア教育推進のための人材育成
- (3) 小中高の教育課程上の連携と、地域住民との連携による勤労観・職業観の基礎の育成
- (4) 「学校における働き方改革」も視野に入れたキャリア教育推進のための知恵と工夫

の4点が宗谷の現状や課題と一致することを管内研究部で確かめ合い、研究内容として取り上げることとした。

3 研究の視点

以上を踏まえ、本分科会では、ふるさとを愛し、志を持って、新しい社会を切り拓く力を育むキャリア教育推進に果たす市町村校長会の役割、キャリア教育を教育課程に浸透させるために「働き方改革」を視野に入れた教職員の意識改革を図り、学校・地域との連携をより一層進める校長の役割を明らかにする。

II 研究の概要

1 宗谷の教育の特色

(1) 宗谷の自然と基幹産業

日本海とオホーツク海に囲まれ、利尻・礼文二つの離島を有する宗谷管内は、豊かな水産資源に恵まれている。内陸部では、広大な大地を生かした酪農が営まれている。豊かな自然を観光資源として活用する取組も、各市町村で活発に展開されている。

(2) 宗谷の子どもたちを取り巻く環境と課題

宗谷管内全体の人口は64,196人(2018年9月現在)となっている。少子高齢化が急速に進んでおり、「福祉と医療」の担い手不足の問題が深刻な影を落としている。

子どもたちは、宗谷の雄大な自然に囲まれ、基幹産業に携わる人々の働く姿に接して生活している。しかし、メディアに触れる時間は全国平均よりかなり長い。この実態は、コミュニケーション力の未熟さ、さらに、自己肯定感・有用感の低さとなって現れている。

(3) 地域ぐるみの子育てと小中連携・一貫教育の推進

稚内市を始め、管内各地では地域ぐるみの子育て運動が古くから展開されている。子育て・教育に関わる関係者が、共に子どもの自立を目指し、相互に教育力を高め合ってきた成果の一つとして、地域行事への参加率は全国比を大きく上回っている。さらに、子育て運動を前進させる手だてとして、小中連携により9年間の教育を紡ぐ取組が進んでいる。幼・保・高とも積極的に連携を図り、交流を深めている市町村も多い。

(4) 宗谷校長会の活動

宗谷校長会は、「ふるさとを愛し、志を持って、新しい社会を切り拓く力を育む学校教育」をテーマに掲げ、ア 地域と共に歩む信頼と活力にあふれる特色ある学校経営

イ 生きる力を育む創意と調和のある教育課程

ウ 資質向上・協働による信頼に応える学校づくり

エ 法的な根拠をふまえた学校経営と教育活動の充実を重点に据え、3か年継続研究を進めている。

2 キャリア教育推進を担う市町村校長会の取組

管内校長会研究部は、一昨年度に研究を進めるに当たり、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙より質問項目を抽出し、全市町村で同じフォーマットを使用して

それぞれの傾向を分析検討し、改善点を明確にする取組を進めてきた。

(1) 宗谷の子どもたちの実態を数値化し共有

研究の視点に関連し、かつ過去3年間継続して出題された質問から以下の5問を抽出した。管内校長会研究部は全市町村のデータを取りまとめ、全国の数値・宗谷管内の数値とともに、我が街の数値をグラフ化して比較することができるファイルを作成し、各市町村校長会に環流した。

宗谷の過去3年間(H28～H30)の平均値は以下の通り。

- Q1. 自分にはよいところがあると思いますか
小6の過去3年間平均値は全国比 -8.4P(▲2.2)
中3の過去3年間平均値は全国比 -2.7P(+2.6)
- Q2. 将来の夢や目標を持っていますか
小6の過去3年間平均値は全国比 -4.2P(▲2.3)
中3の過去3年間平均値は全国比 -3.7P(▲0.3)
- Q3. 今住んでいる地域の行事に参加していますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +12.2P(+1.4)
中3の過去3年間平均値は全国比 +27.5P(▲3.4)
- Q4. 地域や社会の問題や出来事に関心がありますか
小6の過去3年間平均値は全国比 -3.7P(▲0.2)
中3の過去3年間平均値は全国比 -1.6P(+1.0)
- Q5. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
小中ともに全国平均とほぼ同数値

*()の中はH27～H29の過去3年間平均との比較

これらの数値結果から、

- ① 地域の行事には積極的に参加しているが、地域社会の問題や出来事への関心はやや薄い
 - ② 人の役に立ちたいという意欲はあるが、具体的な夢や目標を持っていない子も多い
 - ③ 自分のよさを自覚できない子どもたちが多いという傾向を数字上でも再確認することができた。
- (2) 各市町村校長会による分析と対策の明確化
- 各市町村校長会では、2-(1)で明らかになった宗谷の子どもたちの傾向と、我が街の子どもたちの傾向を比較し、それぞれの市町村のよさと課題を共有するとともに、
- ① 全国・宗谷と比較した際に大きな「差」が生まれている背景は何か
 - ② 大きなマイナスが生じている項目の数値を改善させていくにはどんな手立てが有効か
- について検討を進め、教頭会や教育関係者とも共有しながら、我が街の取組へとつなげている。

(3) ふるさとキャリア教育の有用性

2-(1)の市町村ごとに分析した結果、成果が表れていた幌延町の取組について紹介する。

3年間(H28～H30)の平均値は以下の通り

- Q1. 自分にはよいところがあると思いますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +12.3P(+20.7)
中3の過去3年間平均値は全国比 +8.7P(+11.4)
- Q2. 将来の夢や目標を持っていますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +0.6P(+4.8)
中3の過去3年間平均値は全国比 -12.2P(▲8.5)
- Q3. 今住んでいる地域の行事に参加していますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +26.3P(+14.1)
中3の過去3年間平均値は全国比 +39.4P(+11.9)
- Q4. 地域や社会の問題や出来事に関心がありますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +9.1P(+12.8)
中3の過去3年間平均値は全国比 +0.1P(+1.7)
- Q5. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
小6の過去3年間平均値は全国比 +2.9P
中3の過去3年間平均値は全国比 +2.8P

*()の中は左記の宗谷管内過去3年間平均との比較

幌延町校長会では、次の2点に着目し分析を進めた。

- ① 自分にはよいところがあると答える割合が高い
小6、中3共に全国平均を上回っている背景には、地域の自然や働く人々から学ぶ体験的な学習活動が教育課程の中にしっかりと位置付けられていることが考えられる。以下、総合的な学習の時間に位置付けられているふるさとキャリア教育についての取組を紹介する。
○木育教室(宗谷総合振興局森林室)…3年 14h
○幌延町についてもっと調べよう …3年 15h
○川の観察会(天塩川河川事務所) …4年 12h
○幌延町を紹介しよう …4年 15h
○しょうがいのある方のくらし …5年 15h
○子ども園の子とふれあおう …5年 25h
○共に生きる(特別養護老人ホーム)…6年 20h
○幌延町のよさを見付けよう …6年 20h
●この他に社会教育の自然体験事業が多数実施

校長は、ふるさとキャリア教育の効果を教職員で共有し、連携窓口の明確化と改善点の引継ぎを指示した。

- ② 地域の問題や出来事への関心を高める中学校教育
小6から中3にかけて大きく改善した項目が「地域や社会の問題や出来事に関心がありますか」という項目である。この背景には、中学校の「幌延町子ども議会」の効果が大きい。議員さんから直接町政の仕組みについて学び、実際に議会で質問し、町政に反映させる体験的な学習である。子どもたちの感想を一部紹介する。

- ア 実際に質問してみて、議員としての自覚を持つことができた。
- イ これからも町に対しての疑問があったら議員さんと話をしたいと思います。

幌延町校長会は、小中連携でのキャリア教育による子どもたちの成長を確かめ合い、取組の有用性について学校便りや町広報誌を通じて保護者・地域に還流した。

3 地域の課題解決に向けて地域とつながる校長の役割

「宗谷はひとつ」を合い言葉に、学校間連携と地域との連携が宗谷の教育発展に果たしてきた役割は大きい。ここでは、稚内市の特色ある実践と校長会の役割を紹介する。

(1) 地域の課題と向き合うふるさとキャリア教育

稚内市における切実な課題は、少子高齢化による「人口減少」と「福祉と医療」を担う人材の不足である。そのような状況の中で、子どもたちの自己肯定感が低く、将来に夢や目標を持っている子どもたちの数値も全国平均に比べ10p以上低くなっている。

① 「福祉」との連携を重視した取組

A小学校では、地域と一体となってノーマライゼーションの理念の実現に向けた教育活動を展開し、児童は質問紙項目の5項目すべてにおいて、よくあてはまる(100P)を選択している。活動の一部を紹介する。

○楽生大学生(地区のご老人)との交流

…1・2年生 5h

○B養護学校(小学部)との交流 …3・4年生 18h

○特別養護老人ホームとの交流 …5・6年生 13h

○A地区もちつき大会 …休日利用

「福祉」を柱とした体験的な教育活動を積極的に取り入れ、利用者の皆さんや各種施設で働く人たちとの出会いの場を大切に教育活動を推進している。

校長は、地域の実態や課題を丁寧に分析し、地域の課題と特色を生かした体験的な教育活動を積極的に取り入れ、社会に貢献しようとする態度を育てる教育活動を推進するために地域連携の先頭に立った。

② 「医療」との連携を重視した取組

「医師不足」の問題は、北海道の各地で深刻な社会問題となっている。最北端に位置する稚内市においては、より一層深刻な課題となっている。この課題解決に向けて、「医療」と「教育」の連携による取組が小中高で系統的に進められている。活動の一部を紹介する。

○地域医療を考える稚内市民会議による「医学生とのふれあい in wakkanai」への参加(小学生7名参加)

○「医療探検講座」(18名の中学生が参加)

○メディカルカフェ・イン・稚内(高校生14名参加)
いずれも長期休業中や休日を利用した取組で、教

員の引率はなく、「医療」関係者と各学校が連携し、体験的な活動への積極的な参加を呼びかけ、夢に向かって努力してきた人々との出会いの場をつくった。

このような取組の結果、中3では人の役に立つ人間になりたいという項目において全国平均を上回った。

稚内市校長会は、子どもたちが将来への夢や目標を確立し、希望をもって社会の一員として成長できるように、地域連携・小中高の学校間連携の先頭に立ち地域の課題に向き合うキャリアプランの作成を進めている

III まとめ

1 成果

- (1) 校長は管内・市町村校長会で共通の視点で学び合い、児童生徒の現状と課題解決の方向性を行政・地域企業と共有し、取組で変容する子どもたちの姿を通して有用性について教職員と共通理解することができた。
- (2) ふるさとキャリア教育を推進し、ふるさとを愛し、社会に貢献しようという心を育て、自己肯定感を高める取組として充実・改善を進めることができた。
- (3) ふるさとキャリア教育で伸びていく子どもたちの姿を地域に発信し、校長が地域連携・学校間連携の先頭に立つことで、更なる取組の充実につなげることができた。

2 課題

- (1) 校長会で学び合い、有用性が確かめられた実践については改善を加えながら継続して成果を確認していく必要がある。そのための研究体制と関係機関への働きかけを維持していく必要がある。
- (2) 学校間・地域連携においては、校長の実態分析力と経営方針に位置付けるリーダーシップが重要であり、連携から生まれた様々な教育活動に対してキャリア教育の価値付けをより一層図る必要がある。
- (3) 推進業務を担うミドルリーダーの育成を図り、組織的にキャリア教育に取り組むことで「働き方改革」を進めていきたい。今後更に進む宗谷校長会の大幅交代期による教育理念の継承も大きな課題である。